

44	みつもる	見積もる	①	A			五他	和語					小高2					見積もる	
45	めんせき	面積	③	B		面→積	名	漢語	面積				小高1	面積	面積	面積	円の面積	面積	面積
算数4年 面積																			
46	ようせき	容積	⑤	B	≒体積	容→積	名	漢語					小高1		容積	容積		容積	
47	るいせき	累積	○	A		累=積	名・自他サ変	漢語					中学4		数学中学1年 累積度数		累積	累積	

凡例

意味区分

常用漢字表の音訓
セキ
つ-む
つ-もる

原義 イネをかさねつむ
基本義 A つむ・つもる・たかくかさなる・たかくかさねる・時間をかけてたまる
これまでのすべてを合計する（累積・積算）
予測する（心積もり・見積もる）
派生義 B かけ算の答え

当用漢字音訓表の音訓
セキ
つ-む
つ-もる

「責」を構成要素とする漢字
責⑤ 績⑤ 債④ 漬④ 蹟（人名用）

b 読み 候補漢字語の読みをひらがなでしめし「見出し語」とした。
jklmn欄にある語を「基本語イ」とし、この欄で赤字でしめた。
（中）中学校段階で指導する音訓。
（高）高等学校段階で指導する音訓。

d 学年配当 「学年別漢字配当表」における小学校の配当学年を○数字でしめた。
○印は、教育漢字外の常用漢字。

e 意味 候補漢字語のおおまかな意味の下位分類を区分した。
区分にふくまれないものは「*」とした。

f 類義・対義・関連の語
≒類義の語、⇄対義の語、⇔異字同訓

g 語構成 二字漢語の構成を記号でしめた。
表作成者の見解で、並列語を「=」（類義のならば）、「-」（対義のならば）とし赤字でしめた。修飾関係の語を「→」とした。
また複合動詞については2つの動詞がそれぞれ本来の意味と格関係を持つ場合に「V+V」と表示した。

j 国字研プリント

漢字指導法研究会の会員著作の『漢字プリント』（日本教育出版サービス刊,1994年）でつかわれている語を赤字でしめた。

k 学習論理語イ一覧表

対象小6	小学校6年	対象についての用語（本質と現象）
認識小2	小学校2年	人間の知的活動用語（認識）
対象中学	中学生	対象についての用語（本質と現象）

武部優子（漢字指導法研究会研究参与，啓明学園初等学校元校長）が1962年に作成した「学習論理語イ一覧表」に掲載されている語。論理的思考力をやしなうために，小・中学校のうちにぜひ指導しておきたいものとして，大久保忠利（1909-1990，漢字指導法研究会創立者）の提案をもとに論理語イを70語選定し，体系的に整理したもの。大久保忠利・松山市造・近藤徹編『言語要素指導』国語教育の体系化Ⅰ（明治図書，1962年）所収。

l 批判読み教育基本語イ

小6論	小学校6年	論理性を確かにし感情の質を高めるもの
小6仲	小学校6年	仲間意識を育てるもの
中1年	中学校1年	

見城慶和（漢字指導法研究会研究参与，元委員長）が1963年に作成した「教育基本語イ」のうち該当の漢字をふくむ語の提示学年を赤字でしめた。
東京都教組荒川教研国語部会『批判読み』（明治図書，1963年）所収。

m 児言研教育基本語イ

小A	小学校段階で特に大切な語い
小B	小学校段階でA語に続くもの
中A	中学校段階で特に大切な語い
中B	中学校段階でA語に続くもの

児童言語研究会が1962年に作成した「児言研国語科教育基本語い・第一次試案」に掲載されている語のうち該当の漢字をふくむ語について赤字でしめた。
大久保忠利・松山市造・近藤徹編『言語要素指導』国語教育の体系化Ⅰ（明治図書，1962年）所収。

n 阪本語イ表

阪本一郎が中心となって1958年と1984年にとりまとめた教育基本語彙のうち該当の漢字をふくむ語を記号でしめた。

小低□：小学校第1～第3学年

小高□：小学校第4～第6学年

中学□：中学校

□の部分は優先順位，最優先を1とし，つづいて2，3，4の順としている。

1984年版で削除されたものには×，追加されたものには○，移動があったものは△・▽をほどこした。1958年版の作成には，児童言語研究会元委員長・国字研元会員の松山市造（元・学習院初等科）が関わった。

o 幼児語イ

大久保愛（漢字指導法研究会元研究参与，国立国語研究所名誉所員）らがおこなった就学前の幼児の語イ調査から，該当の漢字にかかわる語を数字でしめた。

調査は，1977年のある一日（約12～14時間）のなかで，4人の6才児がそれぞれの日常生活場面・遊び場面で発話した語を収集したもの。

数字は，4人の発語の総計。空欄は，発語がなかったもの。